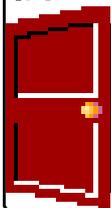


令和5年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

N o 49

桑村小学校令和5年9月22日

文責 渡邊

今、なぜ「豊かな感性」なのか！

平成6年度の広島大学附属東雲小学校の研究紀要(1995. 3. 24)の巻頭言に白神澄二学校長は、「今、なぜ『豊かな感性』なのか」という題で次のような文章を寄せています。

本校が、なぜ「感性」を取り上げ、「豊かな感性を育む」ことを教育の基本に据えたか、その論拠は、次の3点にある。その一つは、社会的要請に視点をおいたもので、平成元年改訂の学習指導要領に示された基本的なねらいにある。これには、これからの社会変化に主体的に対応して心豊かにたくましく生きることができる資質や能力の育成を図ることがあげられているが、この具体的な能力としての「論理的思考力、想像力、直感力」及び「豊かな感性や社会性」に着目したことによる。第二に、幼稚園教育と小学校教育の接続を図る視点から、「豊かな感性」及び「感性」を中軸としてとらえたことによる。特に、幼稚園教育の領域「表現」で培われるものは、特定の教科の内容として関連しているだけではなく、小学校以降の生活やすべての学習の基盤となるものであり、教科学習のように分化した学習においても生かされるとの考えから、小学校教育の改善にも不可欠な要素としてとらえたからである。第三に、本校の昭和60年以來の教育研究の結果として到達した教育の原点に求めることができる。昭和60年度の「受け身の授業からの脱皮」を目指して取り組んだ「自ら学ぶ意欲・態度を育成する指導と評価」の研究から、「個が生きる授業の創造」、「個が生きる授業の評価」へと深化・発展の経緯を辿り、『受け身の振り返る活動』から脱皮し、《価値あるものへ気づく豊かな感性》を育むことの必要性に迫られたのである。以上のように、本校では、「豊かな感性を育む」ことは、自己教育力の育成につながる基本的で不可欠な要素としてらえているのである。(以下、略)(広島大学附属東雲小学校の研究紀要(1995. 3. 24)巻頭言より引用)

大学の附属の小学校では、教授の指導をいただきながら教育研究に取り組み、それを分析、考察し、研究の成果を研究物等にまとめ、広く紹介します。

桑村小学校は、「豊かな感性」を育む教育活動を令和4年度から本格的にスタートしました。学校長のリードのもと、全職員で学校に置かれた素晴らしい教育環境での豊かな自然体験を柱に、それを読書活動とつなぐことで「豊かな感性」を育んできました。

本校では、大学の先生の支援はありませんが、学校応援団の皆さんをはじめとする地域の皆さん、そして、保護者の方々の温かな力強い応援があります。これがとても嬉しく頼もしいことです。これからの未来社会を生きる子供たちにとって、「豊かな感性」という資質・能力を育成することは、令和の時代でも大切なことであると考えます。これからも豊かな自然に恵まれた学び舎で、教師や友達と共に学校生活を送る中、桑っ子たちが「豊かな感性」を育んでいくことを願います。



【桜の花と桑っ子の学び舎】